

霞ヶ浦・北浦 および 流入河川の魚類



茨城県霞ヶ浦環境科学センター

Ibaraki Kasumigaura Environmental Science Center

魚類と生息環境

霞ヶ浦(西浦)や北浦またそれらの湖への流入河川にはたくさんの魚をはじめとする生き物が生活しています。これらの生き物の多くは生まれてから死ぬまで一カ所にとどまっている事はなく、海との間を移動したり、流入河川との間を行き来したり、また、一生を湖の中で生活する魚でも成長に応じて湖岸から沖合へ移動したり、湖の中を広く泳ぎ回ったり(回遊)しています。また、産卵場所も水生植物をはじめ、流入河川の川底や、湖岸底の砂、貝殻さらに湖底に掘った穴の中や二枚貝の体内(鰓や外套膜)などいろいろあります。

このように霞ヶ浦の魚類が安定して生息できるためには水質も大事ですがそれぞれが生息するためのいろいろな場所(環境)が整っている必要があります。

魚体の各部の名称

上くちびるの前端から鰓蓋(えらぶた)の後端までを頭部(あたま)、肛門までを胴部(おなか)といい肛門から後ろを尾部といいます。



らの長さを測ります。

魚では一般に上顎(うわあご)の先端(吻端)から身体の各部位までの長さをそれぞれ測ります。ただし全長は身体の前端から尾鰭の先端までをいいます。尾鰭の付け根までを体長(標準体長)といい、鰓蓋の後端(うしろはじ)までを頭長といいます。霞ヶ浦にはいませんがカジキマグロのように上顎(うわあご)が長く伸びた魚では例外的に下顎(したあご)から



身体に縞模様がある場合、頭から尾鰭に向かう模様を縦縞といい、背中からおなかに向かう模様を横縞といいます。

縦縞



横縞

(以下の写真の一部は茨城県内水面水産試験場(現水産試験場内水面支場)のご協力をいただきました。)

魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	<p>ウナギ ウナギ目 ウナギ科</p>	<p>体が細長く尾部は側偏。背鰭と尾鰭は連続する。腹鰭はない。全長1mに成る 産卵；グアム島西方の海(6,7月)。黒潮に乗って日本の河川に来る(1月頃)。多くは河川に入るが海に残るものもある。5～12年淡水生活後海に下る。</p>
	<p>クルマサヨリ ダツ目 サヨリ科</p>	<p>地方名：ヨド 体は細長い。下あごが伸張する。背鰭は後位にある。全長20cm。産卵期4～6月。水草などに卵を絡ませる。</p>
 <p style="text-align: center;">雌</p>	<p>メダカ ダツ目 メダカ科</p>	<p>4cm(雌の方が大きくなる)。 産卵4～10月。2ヶ月で2cmになり成熟。カダヤシより尾鰭が角ばっている。尻鰭基底が長い。雄の尻鰭は大きく平行四辺形に近い。水槽内で数が少ないと縄張りを作るが多いと解消する。</p>
	<p>カダヤシ カダヤシ目 グッピー科</p>	<p>メス5cm、オス3cm。交尾期3～6月。卵胎生、体長4cmで100匹くらい生む。 尾鰭後縁が丸い。尻鰭基底が短い。グッピーより背鰭が大きい。5月生まれのものは年内に成熟 ボウフラ退治の為1916年頃台湾経由で移植</p>
	<p>タイリクバラタナゴ コイ目 コイ科</p>	<p>地方呼称：オカメタナゴ、バラタナゴ、オシヤラクタナゴ。体長6～8cm。産卵3～9月。イシガイなどの鰓に産卵。婚姻色：雄の胸と尾鰭は赤。 脊鰭12～14本、ロヒゲがない。腹鰭の前縁白い 春早く孵化した稚魚は秋には産卵 産卵管は長く、体長の3倍まで伸びる事がある 1943年中国からソウギョ・ハクレン導入時に混入</p>
	<p>オオタナゴ コイ目 コイ科</p>	<p>体長20cmになる。きわめて短い口ひげが体長6.4cm頃からある。 産卵期：4月中旬から6月下旬。 肩の部分に明瞭な黒色斑がある。食用になる。</p>
	<p>ヤリタナゴ コイ目 コイ科</p>	<p>ニガブナ。体長10cmになる。産卵期3～6月 1年で成熟 体高はあまり高くない。婚姻色：背鰭・尻鰭が橙色になる。喉部から胸部は黒。 脊鰭9～10</p>

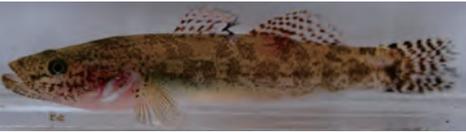
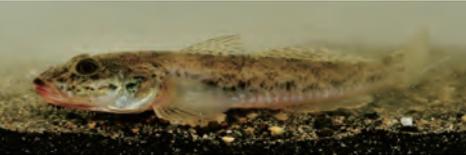
魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	<p>ゼニタナゴ コイ目 コイ科</p>	<p>1年で6～7cmになり成熟。産卵期9～10月。仔魚は半年貝の中、稚魚は貝の中で越冬する。 体は強く側偏し体高が高い。側面からは菱形に見える。鱗が小さい。口ヒゲ無い。 脊椎11軟条 婚姻色：体が熱した銅板のような赤銅色になる。 産卵基盤であるマツカサガイが減少したため現在皆無状態</p>
	<p>カネヒラ コイ目 コイ科</p>	<p>1年で4～6cm、2年で9cm、最大12cmになる大型のタナゴ。産卵期9～10月。 背面は青褐色、腹銀白色、頭部・側面は淡桃色 口ヒゲ1対、ヒゲの長さは眼径の半分以下 琵琶湖からの移入魚</p>
	<p>タナゴ コイ目 コイ科</p>	<p>地方呼称：ニガブナ(タナゴ類一般) 1年で5～6cm、最大10cm、1年で成熟する。産卵期4～6月。 タナゴ類の中では体高が一番低い。極めて短い口ヒゲ1対。背鰭・尻鰭が小さい。 脊椎9～10本。 アカヒレタビラに似ているが尻鰭が白又は黒い</p>
	<p>アカヒレタビラ コイ目 コイ科</p>	<p>1年で5～7cm、2年で8cmになる。産卵期3～6月 オスの婚姻色は背部が緑、背鰭、尻鰭、腹鰭の外縁部が赤くなる(尻鰭は白くなるものもある) 口ヒゲ1対、脊椎10軟条</p>
	<p>コイ コイ目 コイ科</p>	<p>1年20cm、最大では100cmを超えるものもある。 産卵期4～7月 最近のコイは体高が比較的高く側偏するが野生種は体高が低く、体も円筒形であった。 口ヒゲ2対 前方の1対は短い。脊椎23～25本</p>
	<p>キンブナ コイ目 コイ科</p>	<p>体長は最大10～15cmになるが、住む場所によって著しい差がある。産卵期3～6月。 体色；黄褐色, 日本の方ナの中で最も体高が低い。 背鰭の基底が短い。口ヒゲ無い 脊椎12～14(16) 今霞ヶ浦には非常に少ない。</p>

魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	<p>ギンブナ コイ目 コイ科</p>	<p>マブナ。体長15～30cm。産卵期3～6月 体色；銀褐色。体高はギンブナとゲンゴロウブナの中間。 脊鱗16～19本。 霞ヶ浦ではオスはいない。ヘラブナ等他の魚の精子で発生</p>
	<p>ゲンゴロウブナ コイ目 コイ科</p>	<p>ヘラブナ、カワチブナ。1年で10cm、2年；20cm、3年成熟。最大50cm。体色；銀灰色、背部は灰色、側面銀白色。体は側偏し日本のフナの中で一番体高が高い 脊鱗16～19本。 1930年琵琶湖から移入</p>
	<p>カワムツ コイ目 コイ科</p>	<p>15cmになる。産卵期5～8月。体側に太い黒色縦線がある。胸鱗や腹鱗の前縁は黄色い（近縁のヌمامツでは赤い）。他の魚類の放流時に混入していたもの。流入河川に多い。</p>
	<p>オイカワ コイ目 コイ科</p>	<p>ヤマベ・ハヤ。体長15cmになる。産卵期5～8月。オスは横縞の婚姻色が強い。前方の尻鱗が大きい。 脊鱗8本 比較的汚染に強い。河川内に多い</p>
	<p>ハス コイ目 コイ科</p>	<p>1年；6～7cm、4～5年；25cm、最大30cm 産卵期5～8月 雄：産卵期に尻鱗の前方部が大きい。婚姻色が鮮やか。口が「へ」の字に曲がる。 背びれ8軟条 日本のコイ科の中では唯一の大型動物食性魚 琵琶湖からの移入魚</p>
	<p>ウグイ コイ目 コイ科</p>	<p>体長20～30cm。産卵期3～5月。婚姻色：体側にオレンジ色の線が3本入る。 河口部や沿岸部にできるものもある。</p>
	<p>ソウギョ コイ目 コイ科</p>	<p>草魚。体長100cmになる。産卵期6～7月。大雨で増水したとき利根川本流で産卵。卵は海に出る前に孵化し下流部で稚魚になる。 コイに似ているが背びれ基底が短く、口ヒゲも無い 脊鱗8軟条 昭和18年（1943）中国からハクレンとともに食用として移植</p>

魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	<p>ワタカ コイ目 コイ科</p>	<p>1年5~10cm、最大30cm。満2年で成熟。産卵期6~8月 体は側偏する。頭小さく目が大きい。背鰭の第3棘状軟条が柔らかい。 脊椎れ8軟条 水草等の雑食性。1960年他の放流魚に混ざって琵琶湖から。</p>
	<p>ハクレン コイ目 コイ科</p>	<p>レンギョ 体長：80~100cmになる。産卵：6, 7月の大雨後増水した河川で産卵。 体は著しく側偏。腹縁にキール状の鱗。目は下位 昭和18年（1943）中国からソウギョとともに食用として移植（同時にコクレンやアオウオも入ってきた）</p>
	<p>ニゴイ コイ目 コイ科</p>	<p>サイ 体長30~60cm。産卵4~6月、流入河川下流部で産卵。コイに似ているが、口先が尖り体が細い。 口ヒゲ1対。 脊鰭6軟条 霞ヶ浦では増えている。食べる人は少ない 春先が美味という（花見ザイ）。</p>
	<p>タモロコ コイ目 コイ科</p>	<p>モロコ・ザコ。1年；5~7cm、2年；10cm。産卵期4~7月、水草などに生み付ける。 体は紡錘形で頭部は丸くずんぐり。口ヒゲ1対。鰓蓋から後方の体側に太い黒縦線。 脊鰭8軟条 原産地は西日本といわれ、明治以降に霞ヶ浦へ入ったといわれる。</p>
	<p>モツゴ コイ目 コイ科</p>	<p>クチボソ・ザコ、ヤキ。産卵期4~7月。1年；5cm、2年；10cm。1年で成熟する。 体細長く頭が尖って口が上を向いている。口ヒゲが無い 脊鰭8軟条</p>
	<p>ビワヒガイ コイ目 コイ科</p>	<p>ツラナガ、鯉魚（コウギョ）。3年；20cm、産卵期；4~7月。二枚貝の外套膜に卵を産み付ける。 体形；紡錘形。口は吻端の下にある 脊鰭8軟条 明治天皇が好まれたことから「鯉魚」と呼ばれる。 琵琶湖からの移殖魚</p>
	<p>ツチフキ コイ目 コイ科</p>	<p>体長10cm。産卵期4~6月。次のカマツカに似るが目から吻端までが短い。尾鰭の縞模様が中央部で後方に向かう。1960年頃に報告されたがその後は報告がなかった。2010年頃から再び見られるようになった。</p>

魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	カマツカ コイ目 コイ科	スナホリ、スナムグリ。体長20cmになる。2～3年で成熟。産卵期5～6月。 口は下向きにあって伸長する。目の位置が高い。 口ヒゲは1対で長い。脊椎れ8軟条 砂の中の虫などを捕る。驚くと砂に潜って目だけ出す。肉は不味いという。
	スゴモロコ コイ目 コイ科	1年；5～8cm。全長12cmになる。産卵期5～6月 体は紡錘形で断面は丸い。 口ヒゲ1対 琵琶湖からの移入魚(経緯は不明)
	ドジョウ コイ目 ドジョウ科	1年；雄11cm、雌15cm。産卵期4～7月 腹側は淡い、体側に小暗色斑点散在。口ヒゲ；10本 脊鰭8軟条
	ナマズ ナマズ目 ナマズ科	4～5年で50cm。産卵期5～6月。 頭部は縦偏、胴部は円筒状、尾部は側偏する。口は大きく、背鰭が小さい。尻鰭と尾鰭はつながる。 口ヒゲ2対(4本)稚魚には3対(アメリカナマズ；8本)
	ギバチ ナマズ目 ギギ科	ギユウバチ。体長25cmになる。産卵期7～8月 ヒゲは鼻腔の前1对上顎1対下顎2対計4対8本 背鰭と胸鰭に棘がある。脂鰭がある。鱗が無い
	チャンネルキャットフィッシュ ナマズ目 イクタルルス科	アメリカナマズ、アメナマ。体長100cmくらいになる。 大きな脂鰭がある 頭部は縦偏、胴部以後は側偏する。口ヒゲ4対(8本) 胸鰭と背鰭に棘がある。体に鱗がない。 北アメリカから1981年に養殖魚として輸入したものが野生化した。
	ワカサギ キュウリウオ目 キュウリウオ科	チカワカサギ、アマサギ。体長15cm。産卵期2、3月 ほとんどは産卵後に死ぬ。体の背側は淡褐色、腹側は銀白色。脂鰭がある。口が小さい。 徳川将軍に献上したことから「公魚」ともいう。
  稚魚	アユ キュウリウオ目 キュウリウオ科	アイ。体長20～30cm。産卵期9～10月。産卵後にほとんどが死ぬ。 背側は青味をおびたオリーブ色、側面は銀白色。脂鰭がある。口と背鰭が大きい。 平成4年から霞ヶ浦に定着(陸封化)

魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	<p>シラウオ キュウリウオ目 シラウオ科</p>	<p>シラス。最大7cm。産卵後にほとんどが死ぬ年魚。 体は側偏し細長く吻が尖り脂鱗がある。 踊り食いの魚はハゼ科シロウオ。 茨城の海でとれるのは別種のイシカワシラウオ。</p>
	<p>ペヘレイ トウゴロイワシ目 トウゴロイワシ科</p>	<p>45cmくらい。産卵期3～6月。水草などに生み付ける。 体は長く紡錘形。頭小さく吻端尖る。 霞ヶ浦には養殖池からの逸出。アルゼンチン原産で 昭和60年（1992に）神奈川県に持ち込まれた。魚の 王様（複数の種が呼ばれる）の意</p>
  <p style="text-align: right;">稚魚</p>	<p>ボラ スズキ目 ボラ科</p>	<p>ハク（稚魚）・イナ。30cmまでは川に入る。最大60cm 体は円筒形で頭部の上部は平たい。稚魚は側偏し背 面は緑、体側は銀白色。 3月頃稚魚が海から遡上。冬期に海へ戻るといわれる が湖内に残留するものも多い。いわゆる出世魚で ハク；2～3cm、オボコ；3～18cm、イナ；18～30cm ボラ；30～50cm、トド；50cm～</p>
	<p>イトヨ トゲウオ目 トゲウオ科</p>	<p>体長8cm。背びれ前方の棘部には鱗幕がない。降海型 と陸封型があるが霞ヶ浦では降海型のみ見られる。 産卵期：4～6月。水草などで巣を作りその中で産卵す る。</p>
	<p>オオクチバス スズキ目 サンフィッシュ科</p>	<p>ブラックバス 大型魚では50cmを超えるものもある。産卵期5～7月 体高やや高く背鱗2基。口が大きく後縁は目より後ろ になる。体色は灰緑色、背面暗褐色の斑点、体側に 黒色縦線。1925年国内に輸入、霞ヶ浦では1975（昭和 50）最初に確認。コクチバスは口が小さく後縁が目の中 央より後ろにならない。</p>
	<p>ブルーギル スズキ目 サンフィッシュ科</p>	<p>成長の早いものは3年で20cmになるが多くは10cm未満 産卵期6～7月。 体高が高く著しく側偏する。体色暗褐色。鰓蓋の後 端に濃紺の斑紋がある。 原産地北アメリカ、霞ヶ浦では1970（昭和45）初記 録</p>
  <p style="text-align: right;">稚魚</p>	<p>ヨシノボリ スズキ目 ハゼ科</p>	<p>体長5～6cm。産卵期；5～8月。頭は縦偏し体は側偏 する。腹鱗の長さは幅より小さい。雄の第1背鱗は伸 長する。尾ビレの付け根に横T字型の模様がある。 湖内で越冬した稚魚は群れをなして初夏に川へ入る （トオリゴロと呼ぶ）。</p>

魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	ヌマチチブ スズキ目 ハゼ科	最大体長10cm前後。産卵期；3～7月 雄では第1背鰭が伸びるが鰭幕より著しく突出することはない。胸ビレの付け根が三日月状に黄色く、その中にオレンジのジグザグの線がある
	ウキゴリ スズキ目 ハゼ科	ヤナギツパゴロ。最大15cm。産卵期3～5月 頭は縦偏、体はほぼ円筒形、尾柄部は側扁する。第1背ビレ；低い 口が大きい。体は淡黄褐色。第1背鰭は低く6～7条。 若魚は中層をゆっくり泳ぐ
	ジュズカケハゼ スズキ目 ハゼ科	ヤナギツパ、ヤナギツパゴロ。全長5cm。産卵期；3、4月、湖底に掘った穴で産卵。体高は低く体は円筒状。頭部背面の両眼の間に感覚孔がない。 メスが婚姻色を表し頭部と各鰭が黒くなり体側に横斑がでる(写真)。若魚は中層を泳ぐ。寿命；1年
	マハゼ スズキ目 ハゼ科	体長20cm。産卵期1～5月。湖底に穴を掘り産卵する。尾鰭の上側2/3に同心円状の縞模様がある。霞ヶ浦では希で冬期に下流部で見られることがある。
	アシシロハゼ スズキ目 ハゼ科	トラゴロ。体長5～9cm。産卵期；3～7月 体高は低く、体の前方はほぼ円筒形、後方で側扁する。 背側は褐色、成熟した雄の第1背鰭は糸状に伸び腹鰭が黒くなる。体後半部に白い縞模様がでる。尾鰭の下部に模様がない。
 	カムルチー スズキ目 タイワンドジョウ 亜目 タイワンドジョウ科	雷魚。体長70～80cm。産卵期5～8月。抽水植物体の間の開いた水面に浮巣を作り産卵する。体は円筒状で腹部以後はやや側偏する。体側に大きな斑点状の縞模様がある。空気呼吸をする。 1920年頃に朝鮮半島や大陸からに移入。
	タウナギ タウナギ目 タウナギ科	全長80cm。産卵期6～7月。雌から雄への性転換をする。 胸鰭と腹鰭がない。背鰭、尾鰭、尻鰭はわずかな隆起と成ってつながる。空気呼吸をする。 西日本には以前から生息していたといわれているが霞ヶ浦へは1976年ころ台湾からのウナギ種苗に混入していたもの

魚の写真	名前 目名 科名	地方名・成長・大きさ・産卵期 形態および特徴
	<p>サワガニ 十脚目 サワガニ科</p>	<p>甲幅 3～4cm. 春から初夏にかけて交尾。受精後間もなく卵30～70個腹に抱く、親は数週間子供を腹部に抱え込む。脱皮を続け4年目に親になる。 オスのハサミは片方が大きい。(右が多い) 幼生は他のカニやエビのようにプランクトン生活をしない。 筑波山の溪流中で見られる。</p>
	<p>モクズガニ 十脚目 イワガニ科</p>	<p>甲幅：5.5cm。産卵期；10月～6月。産卵のため秋口に海に下る。産卵が終わると再び川に帰る。 ハサミ足に藻のような毛が生えている。水中では藻のように見える。 張り網にも入るが、産卵のため海に下るときが漁の最盛期 食用のカニとして有名 利根川にはみられるが霞ヶ浦湖内では希</p>
	<p>テナガエビ 十脚目 テナガエビ科 スジエビ</p>	<p>川エビ。産卵期：5～9月 オスは第2脚が長くなる。 子供はプランクトン生活をする。テナガエビは汽水性、スジエビは淡水性。 額角の鋸歯の数 テナガエビ 10～14 スジエビ 3～7 ヌマエビ 14～34</p>
	<p>アメリカザリガニ 十脚目 ザリガニ科</p>	<p>ザリガニ、エビカニ。交尾期：8～10月 交尾後1ヵ月後腹に卵が出る。そのまま孵化し3週間目に離れる。但し遅いものは翌年春親から離れる。 メスは卵を抱くため腹肢が長い。オスには交尾器がある。幼生は他のカニやエビのようにプランクトン生活をしない。 1930年ウシガエル（食用蛙）の餌としてアメリカから輸入</p>

霞ヶ浦の魚

霞ヶ浦へ の来かた すむ場所	昔からすんでいた魚 (明治時代ころより前)	外国から来た魚	他の県から 来た魚
一生 霞ヶ浦 にいる魚	コイ キンブナ* ギンブナ タナゴ* ゼニタナゴ* アカヒレタビラ ヤリタナゴ メダカ クルメサヨリ マナマズ* シラウオ ワカサギ ヌマチチブ アシシロハゼ ジュズカケハゼ* ウキゴリ ドジョウ モツゴ(クチボソ)	オオクチバス (ブラックバス) ブルーギル タウナギ カムルチー(ライギョ)* カダヤシ* ペヘレイ チャンネルキャットフィッシュ (アメリカナマズ) オオタナゴ タイリクバラタナゴ コウライギギ	カネヒラ ヒガイ スゴモロコ ゲンゴロウブナ (ヘラブナ) ワタカ タモロコ ツチフキ
川と 行き来を する魚	ギバチ* ヨシノボリ マルタ* ウグイ* オイカワ* カマツカ* ニゴイ	ソウギョ ハクレン コクレン* アオウオ	アユ ハス カワムツ ヌマムツ*
海と 行き来を する魚	スズキ イトヨ* ウナギ アユ ボラ マハゼ*		

*:滅多に見られない魚

以上のほかイワナ、ヤマメ、コクチバスが桜川から採捕されているがいずれも放流されたものである。また、最近放流(投棄)された観賞魚と見られる魚類がしばしば採捕されている。

